

10分で学ぶ古文シリーズ

古典文法速習

《敬語》

(練習問題つき)

1. 敬語とは

敬語とは？



↑説明ページ

「
」の中の人物や「
」に対して**敬う**(高める) 気持ちを表すときに使われるもの。

敬語の表し方

例 山田先生が酒を飲む

←
「**を敬語(尊敬語)**
にする」

酒を

1 召し上がる

2 飲まれる

3 お飲みになる／飲みなさる

(現代語では)

酒を

1 召し上がる

2 飲まれる

3 お飲みになる／飲みなさる

←
「**古文では**」

酒を

1 召す

2 飲まる

3 飲み給ふ

《練習問題》

問一 傍線A～Iの尊敬語は、次のどれにあてはまるか答えなさい。

ア 動詞 イ 補助動詞 ウ 助動詞 エ 名詞

- (1) 帰^Aりて、宮^Bに、入^Cら^Bせ^C給^Bひぬ。
- (2) ^D帝、鳥飼^Dの院^Eに^Eお^Bは^Cし^Cま^Bし^Cに^Eけり。
- (3) ^Fお^Fほ^Fせ^Gら^Gれ^Gけ^Gれば、すなはち詠^Fみて奉^Fりける。
- (4) いとかしこく賞^Hで^H給^Iう^Iて、かづ^Hけ^Hもの^I給^Iふ。

《解答》

A エ B ウ C イ D エ E ア F ア
G ウ H イ I ア

問二 傍線A～Iの敬語は、次のどれにあてはまるか答えなさい。

ア 動詞 イ 補助動詞 ウ 助動詞

今は昔、和泉式部がもとに、帥宮^{そののみや}通^とは^Aせ^Bたま^Bひけるころ、久しく音^Cせ^Cさせ^Dたま^Dは^Bざりけるに、その宮^Eに^Eさ^Bぶ^Bら^Bふ童^Eの来^Eりけるに、御文もなし。帰^Eりま^Eるに、

待^Eたま^Eし^Eもか^Eば^Eかり^Eこそは^Eあ^Eら^Eま^Eし^Eか^E思^Eひ^Eも^Eか^Eけぬ^E今日^Eの夕暮^Eれ

持^Fて^Fま^Fゐ^Fり^Fて、^Gま^Gゐ^Gら^Gせ^Gたり^Gければ、「まことに久しくなりにけり」と心^Gぐるしく^Gて、や^Gが^Gて^Hお^Hは^Hしま^Hし^Hけり。女^Hも、月^Hを眺^Hめて、端^Hに居^Hたりけり。前^H裁^Hの露^H、き^Hら^Hき^Hらと置^Hきたるに、「人は草葉の露なれや」と^Iの^Iたま^Iは^Iする^Iさま、優^Iに^Iめ^Iで^Iたし。

《解答》

A ウ B イ C ウ D イ E ア F ア
G ア H ア I ア

2. 敬語の三種類と補助動詞



(1) 尊敬語

「」が話題の中の
「」に敬意を表す。

例文 男が 女に 文を 書き 給ふ。

《補助動詞 (尊敬語)》

(動詞)

(訳)

「」がしゃべる

(2) 謙讓語

「」が話題の中の
「」に敬意を表す。

例文 男が 女に 文を 書き 奉る。

《補助動詞 (謙讓語)》

(動詞)

(訳)

「」おしあげる
「」おしやる

(3) 丁寧語

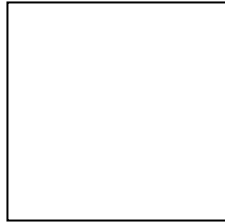
「 」が「 」
「 」に敬意を表す。

例文 「男が女に文を書き侍り。」

と児が翁に言ふ。

《補助動詞（丁寧語）》

(動詞)



(訳)

※ 補助動詞とは

動詞が、本来の意味と独立性を失って、付属的な意味を添えるものとして用いられるもの。「私は日本人である」の「ある」、「風が吹いている」の「いる」等、断定・動作の様態・敬意などを示すものとして用いられる。

古文の敬意を示す補助動詞は、単に敬意のみへ尊敬語・謙讓語・丁寧語を表す。いわば、記号のようなものと考えてよい。

《練習問題》

問三 次の各文の傍線部は、尊敬・謙讓・丁寧のうちどれか。

- (1) 皇子もあはれなる句を作り給へるを、限りなうめで奉りて、
- (2) あはれなる事は、おりおはしましける夜は、
- (3) 年ごろ思ひつること、果しはべりぬ。
- (4) 大納言殿に知らせたてまつらばや。

問四 傍線部A～Dの謙讓語のうち、補助動詞はどれか。

- (1) 昔、太政大臣とA聞こゆる、Bおはしけり。
- (2) 正月に、拝みC奉らむとて、小野にDまうでたるに、比叡の山のふもとなれば、雪いと高し。

《解答》

- 問三 (1) 謙讓 (2) 尊敬 (3) 丁寧 (4) 謙讓
- 問四 C

問五 次の各文の傍線部のうち、補助動詞はどれか、また、それは尊敬・謙讓・丁寧のうちどれか答えなさい。

- (1) ここにAおはするかぐや姫は、重き病をしB給へば、え出でCおはしますまじ。
- (2) 薬の壺に御文そへ、Dまゐらす。
- (3) 妻戸押し開けて出でE給ふを見Fたてまつり送る。
- (4) 竹の中より見つけG聞こえたりしかど、
- (5) かかる人こそは世にHおはしましけれと、おどろかるるまでぞまもりIまゐらす。

《解答》

- B 尊敬 C 尊敬 E 尊敬 F 謙讓 G 謙讓
- I 謙讓

3. 本動詞の用法

(1) 尊敬語



大殿ごもる	ご覧ず	おぼす	給ふ たぶ	仰す のたまふ	おはす おはします	語
お休みになる	ご覧になる	お思いになる	お与えになる	おっしゃる	いらっしゃる	訳
寝	見る	思ふ	与ふ	言ふ	あり 行く・来	もとの語

(2) 謙讓語

仕 ^{つか} うまつる つかまつる	侍り・候ふ	承る	たまはる	奉る・参らす	申す・聞こゆ	まがる まかづ	参る・まうづ	語
お仕えする いたす	お仕えする	お聞きする	いただく	差し上げる	申し上げる	退出する	参上する	訳
をり・仕ふ す	をり・仕ふ	聞く	受く	与ふ	言ふ	行く・来	行く・来	もとの語

(3) 丁寧語

語	訳	もとの語
侍り・候ふ	あります おります ございます	あり をり

※ 本動詞について

本動詞は、通常の古文単語と同じように一語一語暗記するしかない。ここに載せているのは代表的な語だけなので、その他は出てくる度に覚えよう。

《練習問題》

問六 傍線の部分を、尊敬語に注意して、現代語訳しなさい。

(1) 琴の御琴を、人よりことに弾きまさらむとお**ぼせ**。

〔訳〕 琴の御琴を、人より格別上手に弾こうと「 」。

(2) 親王、おほとのご**ごもろ**で、あかし給うてけり。

〔訳〕 親王は、「 」、(夜は)あかしてまいなさった。

(3) むすめを、われにた**た**べ。

〔訳〕 娘さん(かぐや姫)を、私に「 」。

問七 傍線の部分を、敬語(謙讓語、尊敬語)に注意して、現代語訳しなさい。

(1) 狩しに^Aおはします供に、右馬頭なる翁、^Bかうまつれり。

〔訳〕 狩をしに「A 」お供に、右馬頭の翁が、

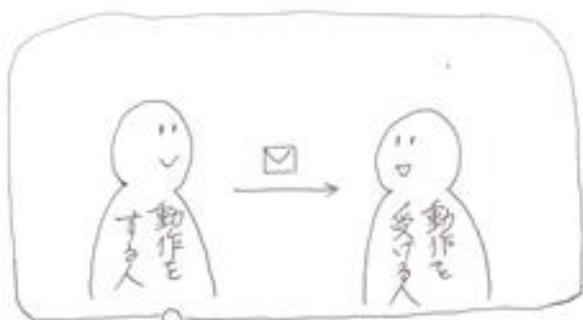
「B 」。

4. 敬意の方向

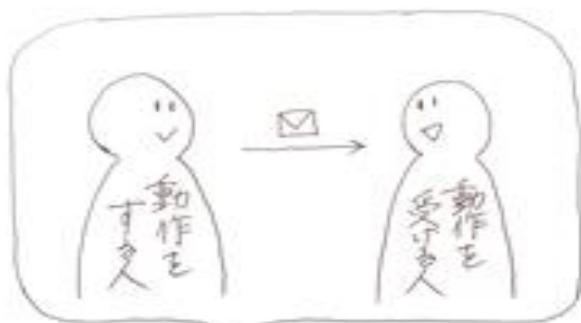
《イメージ》



【地の文】



【会話文】



※敬意は必ず「書き手（作者）・話し手」から
出発する！

尊敬・謙譲・丁寧の矢印の向きを確認する！

《敬意の方向》

① 地の文（会話文でない文）

（誰へ）



（誰から）

尊敬語

謙讓語

丁寧語

② 会話文

（誰へ）



（誰から）

尊敬語

謙讓語

丁寧語

《練習問題》

問九 傍線の尊敬語は、Aだれの(だから)、Bだれに対する、

敬意を表しているか、現代語訳の人物関係を参考にして、
答えなさい。

(1) 急ぎ参らせて御覧するに、珍かなる児の御容貌なり。

【訳】 急いで(宮中へ)参上させて、(帝が)御覧になると、めつたにないほど美しい赤ん坊(光君)のお顔である。

(2) 大御酒給ひ、禄給はむとて、つかはさざりけり。

【訳】 お酒を下さるう、(こ褒美をお授けになろうとして、(親王は業平を)お帰しにならなかつた。

(3) 翁、「うれしくも、のたまふものかな」といふ。

【訳】 翁が、(かぐや姫に)「うれしいことを、おっしゃるものだよ」といふ。

(4) 「たれよりもすぐれ給へり」とこそ申しけれ。

【訳】 「道長殿の人相は」誰よりもすぐれておられる」と、(人相見は)申し上げた。

問十 傍線の謙譲語は、Aだれの(だから)、Bだれに対する、

敬意を表しているか、現代語訳の人物関係を参考にして、
答えなさい。

(1) 御供に、公忠、さぶらひけり。

【訳】 (帝の)お供として、公忠が、おそばにひかえていた。

(2) 殿も上も参り給ひつつ、もてかしづき聞こえ給ふ。

【訳】 道長殿も奥方も、(若宮の所へ)参上なさって、大切にお世話申し上げなさいます。

(3) この御方の御諫をのみぞ、なほ、わづらはしう、心苦しう思ひ聞こえさせ給ひける。

【訳】 このお方(お后)のご意見だけを、(帝は)やはり、めんどうなことだとも、気の毒なことだとも、思い申し上げなかつた。

《解答》

問九 (1) A作者 B帝 (2) A作者 B親王

(3) A翁 Bかぐや姫 (4) A人相見 B道長

問十 (1) A作者 B帝 (2) A作者 B若宮

(3) A作者 B御方

問十一 傍線の丁寧語は、Aだれの（だから）、Bだれに対する、敬意を表しているか、口語訳の人物関係を参考にして、答えなさい。

(1) 「さらば、かく申し侍らむ」といひて、入りぬ。

【訳】 「それなら、そう（姫に）申しましょう」と（姫が使者に）
いって、入った。

(2) 「当時、わづかに七八十騎こそ候ふらめ」と申す。

【訳】 「現在、（相手方は）わづかに七八十騎、いるようです」と、
（人々が大臣に）申し上げる。

(3) 徳大寺にも、いかなるゆゑか、侍りけん。

【訳】 徳大寺（の一件）にも、どんな理由が、あったのでしょうか。

《解答》

(1) A 姫 B 使者

(2) A 人々 B 大臣

(3) A 作者 B 読者

5. 敬語の重複



(1) 二方面 (三方面) の敬語

☆敬意を払いたい人物が二人以上いる時に使う敬語。

☆必ず

謙讓・尊敬・丁寧

の順で出現する。

例 「頼朝が家康に^①のたまひ^②侍り」と

道長が清盛に^③申し^④給ふ。

- | | | | | | |
|---|-----|------|----|------|------|
| ① | 尊敬語 | 「道長」 | から | 「頼朝」 | への敬意 |
| ② | 丁寧語 | 「道長」 | から | 「清盛」 | への敬意 |
| ③ | 謙讓語 | 「作者」 | から | 「清盛」 | への敬意 |
| ④ | 尊敬語 | 「作者」 | から | 「道長」 | への敬意 |

(2) 二重尊敬

☆天皇などの皇族は普通の敬語では敬意を表しきれない為、尊敬語を重ねて用いる。

① 助動詞+補助動詞 (最高敬語)

② 動詞+助動詞

※会話文では、普通の貴族でも二重尊敬が用いられることがある。

《練習問題》

問十二 傍線部の敬語について、以下の問いに答えなさい。

「宮は院より、またかさねて御衣^Aたまり^B給^Cひ候^Dひけり」と蔵人、大臣に^D聞^Cこ^Eえ^B給^Aふ。

(1) 傍線A～Eの敬語法の説明として、正しいものを選びなさい。

- ① 尊敬語の本動詞
 - ② 尊敬語の補助動詞
 - ③ 謙讓語の本動詞
 - ④ 謙讓語の補助動詞
 - ⑤ 丁寧語の本動詞
 - ⑥ 丁寧語の補助動詞
- (2) 傍線A～Eは、誰から誰に対する敬意か、次から選びなさい。

- | | |
|-----------|-----------|
| ア 蔵人から宮へ | イ 蔵人から院へ |
| ウ 蔵人から大臣へ | エ 大臣から宮へ |
| オ 大臣から院へ | カ 大臣から蔵人へ |
| キ 作者から宮へ | ク 作者から院へ |
| ケ 作者から蔵人へ | コ 作者から大臣へ |

《解答》

- | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| (1) | A ③ | B ② | C ⑥ | D ③ | E ② |
| (2) | A イ | B ア | C ウ | D コ | E ケ |

問十三 次の文章の傍線部A～Jは、誰から誰に対する敬意か。選択肢からそれぞれ選びなさい。なお、この文章は、語り手である「繁樹」が周囲の人々に話をしている場面である。

- | | | |
|-----------|-----------|---------|
| ア 村上天皇 | イ なにがしぬし | ウ 貫之の御女 |
| エ 繁樹（語り手） | オ 人々（聞き手） | |

いとをかしうあはれにA侍りしことは、この天曆の御時（村上天皇の御代）に、清涼殿の御前の梅の木が枯れたりしかば、求めさせBたまひしに、なにがしぬしの藏人にてCいますがりし時、Dうけたまはりて、「若き者どもは見え知らじ。きむじ（お前）求めよ。」とEのたまひしかば、一京Fまかり歩きしかども、侍らざりしに、西京のそこそなる家に、色濃く咲きたる木の、様体うつくしきが侍りしを、掘りとりしかば、家あるじ（貫之の御女）の、「木にこれを結びて持てIまわれ」といはせJたまひき。

『大鏡』による

《解答》

- | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|
| A | エからオ | B | エからア | C | エからイ |
| D | エからア | E | エからイ | F | エからア |
| G | エからオ | H | エからオ | I | ウからア |
| J | エからウ | | | | |

《現代語訳》

たいそう興味がひかれしみじみ感じられたことでございましたことは、この村上天皇の御代に、清涼殿の御前の庭の梅の木が枯れてしまったので、（代わりを）お探しになりましたところ、誰その殿が藏人でいらつしやった時（仰せを）お受け申し上げて、（その人が）「若い人たちは（どれがよいか）見てもわからないだろう。おまえが探してこい。」とおつしやったので、都中歩き回りましたけれども、ございせんでしたが、西の京のどこそこにある家に、姿の立派な色濃く咲いた木がございましたので、掘り取ったところ、その家の主人が、「木にこれを結びつけて持って参上しなさい。」とおつしやった。